

看護学科

科目名: 成人看護学実習 I				担当教員 氏名: 河相てる美、中田 智子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
3	2~3年次	通年	専門科目	実習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
手術を受ける患者の術前・術中・術後の特徴を理解し、患者および家族のニーズに応じた看護過程を展開し、手術を受ける患者の回復支援のための看護師の役割を理解することができる。手術中患者の看護の要点を知ることができる。クリティカルな状況にある患者の特徴と看護を知ることができる。					生体侵襲 生体反応 臨床判断 共同問題 社会復帰	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			これまで学んだ知識と見学・体験した看護を統合することができる。			
B 専門的技術			患者の安全を確保して、その人に応じた方法で援助を提供することができる。			
D 問題解決力			受け持ち患者の看護過程の展開を実践することができる。			
F チームワーク・リーダーシップ			グループでの自己の役割を理解し、自己の責任を果たすことができる。互いの情報を共有して助け合うことができる。			
G 倫理観			自らを律して、人・社会人として看護師を志す者として、自己を見つめ新たな自己成長を目指すことができる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: %
その他: %						
特記事項: 出席状況、実習中の積極性を重視する。課題レポート、実習記録の提出その内容から総合的に判断する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 実習前課題にコメントして返却し、不備のある学生は再提出を課す。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
* 実習日程・内容等の詳細については実習要項に記載				予習: 疾患と看護について、整理したノートの提出		
				復習: 実習の振り返りを行い、実習記録を整理し、提出		
				事前の演習(1): 4事例を提示し、学生同士で演習		
				事前の演習(2): 手術室の手洗い、ガウンテクニック、無菌操作、洗髪、足浴、清拭の演習		
使用テキスト: 1. 矢永勝彦他編集: 系統看護学講座: 別巻 臨床外科看護総論, ISBN978-4-260-02769-4 医学書院. 2. 北島政樹他編集: 系統看護学講座: 別巻 臨床外科看護各論 ISBN978-4-260-02765-6 医学書院. 3. 看護診断ハンドブック第11版, ISBN978-4-260-03451-7 医学書院.				その他参考文献など: 竹内登美子: 周手術期看護1~5(医歯薬出版株式会社) 本庄恵子監修: 写真でわかる臨床看護技術②(インターメディカ)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本実習の目的を理解し、目標の到達に必要な行動目標を明確化して毎日の実習に臨んでほしい。担当教員および指導者と報告・連絡・相談を密に行い、行動計画を修正しながら積極的に実習に臨んでほしい。						